

「岩に磯馴れ松時絵大甕」 切り立った岩山にたくましく生える松をモチーフにした大甕。岩山には炭粉上げをして凹凸をつけ、窪みに金板、岩肌には切金を施して品の良さを演出。また松は高時絵、松袋は細かい毛打ちをし、岩の背景には金粉を全面に蒔き固めて研ぎ出し、豪華に仕上げました。

「結びのし時絵大甕」 心を込めて正式に差し上げる象徴の「のし」。それを帯状に文様化した吉祥文様に、多彩な色漆をベースに、桜、竹、青海波等を描きました。

「葡萄時絵 和紙張り吹雪」 強靱な蔓を伸ばし、みずみずしい果実をつける葡萄は豊穣の象徴。たくさん実をつけることから子孫繁栄としても縁起がいいモチーフです。葉には切金や梨子地金を使い、果実は螺鈿をあしらって上品かつ華やかに仕上げました。

一瓢 良子

1991年豊橋技術科学大学入学、1997年同校修士課程修了。2000年京都伝統工芸大学校入学、2002年同校卒業。
2008年「京もの認定工芸士」認定。

〒603-8126
京都市北区小山上板倉町43
TEL.075-491-4448
FAX.075-492-4631



躍動的なモチーフにも

繊細で奥行きのある優美なセンスが光る

京都伝統工芸大学校で学び、現在は京都で作家活動を行っています。甕などの茶器に松や熨斗といった古典柄を大胆に配し、少し粗い金粉を用いて深い味のある金色を出すようにしています。また、躍動感あふれるモチーフの細部に切金や螺鈿などをあしらひ、細やかで上品な作品を目指しています。古より受け継がれてきた技術・技法を継承しつつ、自分なりの特色を生かしたいと日々考えながら作業しています。

◆京もの認定工芸士とは…

京都の伝統工芸品(京もの)の製造に従事し、特に優れた技術を有した意欲ある若手職人に京都府知事から授与される称号。

京もの認定工芸士 第8号

いっぴょう 良子
りょうこ

